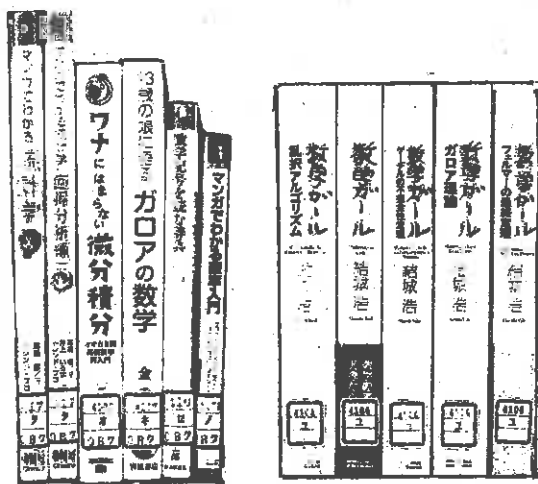


夏はやっぱり数学の本！！

最近、「数学」がちょっとした「はやり」になっているようです。鹿児島にも「数学カフェ」という、お茶を飲みながら数学を学ぶ場所があると聞きますし、NHKでは数式を駆使して犯人を見つけるというドラマも放映されているそうです。「理系女子（りけじょ）」という言葉が話題になる少し前に、『数学ガール』（結城 浩 著・ソフトバンククリエイティブ 刊）という本が出版されました。敬愛館でも、数学好きに読まれているシリーズです。この頃から、静かな数学ブームが始まってきたのかもしれませんが。

今年度いただいた「久木迫文庫」にも、分かりやすい数学の本がたくさんあります。『マンガでわかる統計学』『ワナにはまらない微分積分』『13歳の娘に語るガロアの数学』など、数学が苦手だと思っている人にも、気軽に読めるものばかりです。昼休みに仲間と数学の話をする。すると、教室がまさに「数学カフェ」に変身してしまう・・・のではないのでしょうか。

数学関係の本棚には、専門的な本から、数学が苦手かもしれない人向けの本までずらりと並んでいます。そして、数学がいろいろな場面に应用されていることに気づきます。「ワナにはまらない」ためにも、数学の知識をつけておきましょう！ぜひ、楽しい数学の本をお読みください！



名作劇場

夏目漱石『ころ』を読む

朝日新聞に夏目漱石の『ころ』の連載が始まったのは、ちょうど百年前のことです。百年も前に書かれた小説が、今でも私たちの課題図書や必読図書に選ばれ、国語の教科書にも掲載されているのはなぜでしょう。漱石が近代日本を代表する作家だからでしょうか。いいえ、それだけではないはずです。やはり、その内容や巧みな心理描写が、今を生きる私たちにも、共感するところがあるからでしょう。では、『ころ』のあらすじを紹介しましょう

「私」は、鎌倉の海で出会った「先生」の不思議な人柄に強く惹かれ、関心を持ちます。「先生」は、恋人を得るために親友Kを裏切り、自殺へと追い込んでしまいます。そのことは、先生の遺書で明らかになります。近代知識人の苦悩を描いた漱石の代表作です。かなり暗くて重い内容ですが、「百年前も今も人の思いや苦悩は同じなんだ・・・」と思える作品です。



それにしても、百年前の新聞連載小説の質の高さに驚き、また、その新聞を待ちわびる人たちがいたことにも驚きます。そして、名作は百年たっても色あせることはないということも分かります。『ころ』をまだ読んでいないという人、この夏、じっくり読んでみませんか！

夏休みの利用について

いよいよ夏休みです。夏は受験の天王山。友の学ぶ姿に刺激を受けながら、自らを律し学問に励んで頂きたいと思えます。夏休みの敬愛館の利用時間等は、敬愛館入り口のカレンダーも参考にしてください。

夏休みの利用時間

7月22日（火）～8月1日（金）までの平日 全学年19時まで

8月4日（月）～8月15日（金）までの平日 全学年16時45分まで

夏休み中の土曜・日曜・祝日は平常通り 8時30分～16時30分までの利用となります。

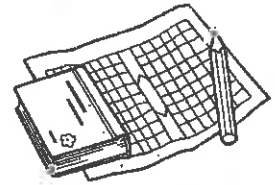
*7月20日（日）は休館します！

本の貸し出しは、8月1日（金）までとします。

夏季課外のない日は書架室を閉館しますので、貸出・返却はできません。



新着図書



- ・『本屋のダイアナ』 柚木 麻子 著 (新潮社)
— 少女から大人への輝ける瞬間。強さと切なさを紡ぐ長編小説。
- ・『平安女子の楽しい!生活』 川村 裕子 著 (岩波書店)
— 平安時代の女子のライフスタイルを紹介したもの。楽しい本です。
- ・『まほろばの王たち』 仁木 英之 著 (講談社)
— 大革命から5年。物部の姫と賀茂役小角、そして古の神々の冒険が始まる。
- ・『太陽の棘』 原田 マハ 著 (文藝春秋)
— 終戦直後の沖縄。ひとりの青年米軍医が迷い込んだのは、光に満ちた若き画家たちの「美術の楽園」だった・・・。
- ・『カレイドスコープの箱庭』 海堂 尊 著 (宝島社)
— 取り違えか、それとも診断ミスか・・・。大学病院の元講師・田口医師と厚生労働省の白鳥の最後の事件!
- ・『海うそ』 梨木 香歩 著 (岩波書店)
— 昭和の初め、大学で人文地理学を研究する秋野は、南九州の運島へ赴く。かつて修験道の靈山があったその島は、豊かな自然の中に、無残にかき消された人々の祈りの跡を残し、秋野を強く引きつけたのであった。五十年の歳月を経て、不思議な縁に導かれ、秋野は再び島を訪れる。いくつもの喪失を越えて、秋野が辿り着いた真実とは・・・。

*作者の梨木さんは、鹿児島市の出身です。1994年に『西の魔女が死んだ』でデビュー。その後、策式部文学賞や読売文学賞など、数々の文学賞を受賞されます。『海うそ』は、廃仏毀釈で失った寺院や独特な家屋様式など、南九州の歴史や民俗を取材し書き上げたところも多いとのこと。例えば加治郡町の電車通り付近の「柿本寺」という地名は、藩政時代にあった寺院に由来していることを知っていますか。歴史が色濃く残る加治郡町で学ぶ私たちの仲間から、将来、歴史学者や地理学者が生まれるかもしれませんね!『海うそ』はそういう切っ掛けを作ってくれる小説になるかもしれません。

6月の統計

4月の貸出総数 547冊

5月の貸出総数 667冊

6月の貸出総数 226冊 (1年62冊 2年72冊 3年92冊)

学年	1年								2年								3年								
	組	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数		6	11	12	5	8	3	11	6	14	22	5	3	11	3	7	7	8	11	3	7	25	17	7	14
合計		62冊								72冊								92冊							

*7月9日(水)の南日本新聞に、橋本 努 北海道大学大学院教授の「“ムダな読書”こそ必要」(学問は楽しい!5)という記事がありました。「目的や理由のない読書の蓄積が、やがて人生に深い意味をもつ」という内容でした。「〇〇のための読書」も必要ですが、「ムダな読書」こそが人々を豊かにするのかもしれない。



編集後記

いよいよ夏休みです!満員の学習室は、それぞれの目標に向かって頑張る皆さんの熱気であふれています。学習室の盛況ぶりとは裏腹に、書架室の方の利用は低迷状態です。もっともっと本を読んでほしいと思います。日々の学習や部活動で忙しいことと思いますが、全く読書をしない・・・というのは、いかがなものでしょうか。本を読むことで、いろいろな場面を経験することができます。考えることができます。小論文のためだけの読書では、つまらないのではありませんか?敬愛館は、もちろん小論文のための本も充実していますが、それ以上に高校時代に読んでほしい本がたくさん揃っています。もっともっと“ムダな読書”を楽しんでほしいと思います。読書三昧の夏休みでありますように!